



掛川特別支援学校

学校と地域のつながりを深める



▲生徒が作った和紙

今月は掛川特別支援学校が取り組んでいる、地域とのつながりを深めるためのコミュニティ・スクールの活動を通じて、生徒が感じたことや思ったことを紹介します。

◎市長政策室 (☎21-1209)



▲2月に行われたリモート交流会の様子

リモート交流で学校への理解を

掛川特別支援学校では、地域と学校が力を合わせて学校運営を考えるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に、昨年4月から取り組んでいます。

まずは多くの方に「学校を知ってもらおう」ことをテーマに活動を始めました。地域と学校をつなぐコーデイネーターの呼びかけで集まった地域の方たちと、リモートで交流するイベントを昨年11月、今年2月に開催。小・中学部の授業の様子を撮影した映像を見たり、高等部の生徒たちが革のペンケースや木のコースターなどを作る様子を見学したりし

てもらったことで、生徒の普段の様子や学校の取り組みへの理解を深めてもらいました。

地域と学校の垣根を越えて

イベントの司会進行などを務めた当時2年生の江藤丈さん、松浦輝美さんは「最初は緊張したが、中山雅規さん（まきき）は「最初は緊張したが、楽しく交流できた。もっと色々な方に自分たちのことを知ってもらいたい」と振り返ります。コーデイネーターを務める蓮福寺（れんぷくじ）の馨敏郎（かよみ）さんは「とてもスムーズな進行で分かりやすかった。参加した地域の方々にも好評で、学校の様子がよく分かった。」

特別支援学校が身近に感じられるようになった」と笑顔を見せました。

高等部の山下光司教諭は「学校や生徒たちのことを広く知ってもらい、地域と学校の垣根を越えて助け合っていける関係を築くことで、障がいのある方への理解も深まることを期待している」と話します。



右から
江藤丈さん
松浦輝美さん
影山悠真さん
中山雅規さん



市ホームページ
高校生が描く掛川